

八ヶ岳南麓地域における観光周遊行動に関する調査分析

山梨大学 工学部土木環境工学科 学生会員 ○鈴木 大輝
山梨大学 大学院医学工学総合研究部 正会員 佐々木邦明

1. はじめに

近年我が国では、観光庁の発足により観光圏の認定制度が進められている。これは観光地を一部の狭い地域だけではなく広い圏域としてとらえ、その圏域内の各地域同士における魅力度の相乗効果を期待している。

しかしながら観光圏域の設定方法にはいくつか考えられる。例えば現実に観光客が周遊行動を行っている地域の連携を高めるケースである。もしくは現状で当該地域を周遊する観光客は少ないが、連携することで双方を周遊する観光客が増加し、互いにメリットが発生するような場合である。もちろん観光圏は自治体間の連携が必要となるため、日常生活圏が一体となっており普段から連携が進んでいる地域は観光での連携も容易であろう。これら圏域設定にはまだ明確となっていない要因が多いが、本研究ではある地域の実際の観光客の周遊範囲をとらえ、その上で望ましい観光圏域の設定について議論するものである。

本研究では特に八ヶ岳南麓地域における観光周遊行動を調査し、地域間の繋がり(地域別の目的地としての選択の連関)や、それに基づいた周遊行動の広がりを与える要因の分析を目的とする。

2. 調査対象

本研究では前述の通り八ヶ岳南麓地域を対象としている。特に八ヶ岳南東部に位置する山梨県北杜市を中心に調査を行った。山梨県北杜市は八ヶ岳エリアの観光圏域設定を検討している。しかしこの地域

キーワード：周遊行動，観光圏域，アンケート調査

山梨大学土木環境工学科交通工学講座

(〒400-8511 甲府市武田 4-3-11 Tel/Fax 055-220-8671)

E-mail : t05c036@yamanashi.ac.jp

では過去に観光行動調査を行った事例が無く、観光客の周遊行動特性を把握できていない。

図-1は調査で得られた全着地トリップの上位13エリアの配置を示している。

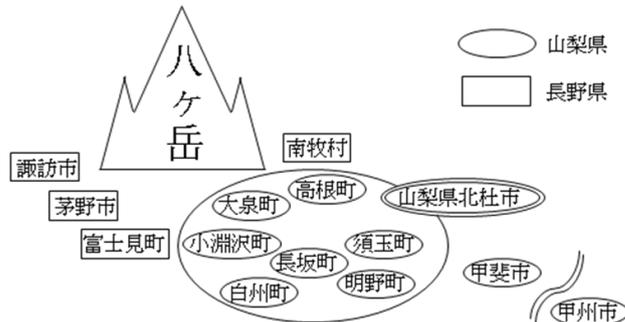


図-1 八ヶ岳周辺エリア分布図

この地域では八ヶ岳南麓に位置する北杜市内だけでなく、西に位置する長野県茅野市・諏訪市、北に位置する南牧村、また訪問客が多いと予想される東京方面には山梨県内の各観光地等があり、それらとの有効な連携が期待されている。しかし観光地の特性等も異なるため、観光客が実際にどのように周遊しているのかを明らかにすることが地域間の連携施策を検討する上で重要と思われる。

3. 観光行動調査の概要

調査にはアンケートを利用した。調査の概要を表-1に記す。

表-1 周遊行動調査概要

調査日	平成 21 年 10 月 11 日(日)
調査方法	街頭配布・郵送回収
配布部数	1181 部
回収部数	501 部(回収率 42.4%)

アンケートの配布は山梨県北杜市内の4ヶ所で行った。配布場所別の回収率は表-2の通りである。これらはいずれも観光客が多く集まるスポットであり、八ヶ岳南麓地域における周遊行動の中で重要な役割を担っている。

表-2 調査実施場所・回収率

配布場所	回収/配布	回収率
東沢大橋	89/160	55.6%
清泉寮	159/440	36.1%
スパティオ小淵沢	133/281	47.3%
道の駅はくしゅう	120/300	40.0%
計	501/1181	42.4%

アンケートには、旅行者個人に関する質問(性別、年齢、居住地、職業等)や、当日の旅行に関する質問(来訪手段、情報収集方法、旅行目的、食事店舗名、宿泊先、訪問スポットとその印象等)を組み込んだ。得られた回答の特徴を表-3に記す。

表-3 旅行形態特性

交通手段	自家用車利用が約90%
来訪回数	リピーターが約90%
旅行形態	ツアー客は1%のみ
宿泊有無	日帰り・宿泊ほぼ均等

旅行者の多くが自家用車を利用していた。そのため渋滞への対策として出発・帰宅時間を早める、高速道路を(一部区間のみ)利用しない等の意見が見られた。またETC設置率は84.8%で、ETC所有者の60.1%が旅行のキッカケとしてETC割引が関係していると答えた。宿泊客の割合は全体の47.5%であったが、初めて八ヶ岳地域に訪れた観光客に関しては74.5%が宿泊旅行であった。

4. アンケート調査集計

(1)年齢・性別

図-2は回答を得られたサンプルの年齢・性別分布を示している。

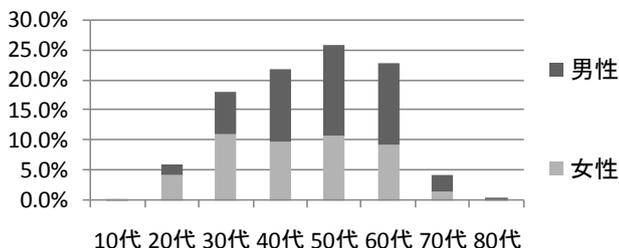


図-2 年齢性別分布

性別に関しては男女ほぼ同割合であったが、年代別では20代以下・70代以上が非常に少なかった。女性は30代から60代まで均等に分布しているが、男性は50代・60代が中心である。

(2)居住地

続いてサンプルの居住地分布を図-3に示す。

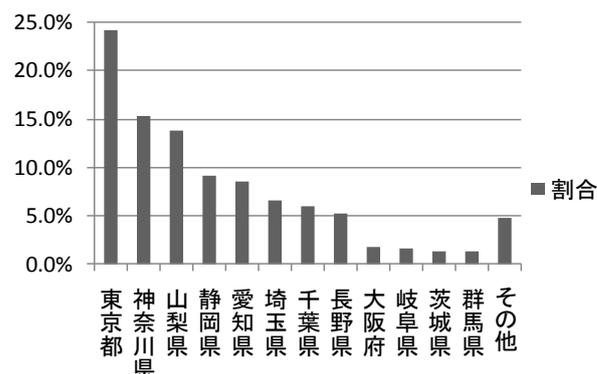


図-3 居住地分布

東京都や神奈川県からの来訪が特に多く、旅行目的としては食事や休養が目立った。

- ・関東圏からの観光客-----55.6%
- ・東海圏からの観光客-----20.4%
- ・山梨県・長野県からの観光客----19.0%

上記累計----95.0%

(3)評価・印象、リピート率

図-4では「再度八ヶ岳エリアに訪れたいか」の問いに対して来訪回数別に示した。

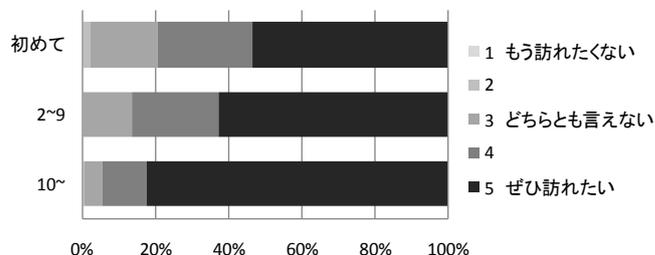


図-4 再度八ヶ岳エリアに訪れたいか

5段階評価において4以上と回答した人の割合が89.4%であった。特に来訪回数が増加すると評価も高くなる傾向がある。それゆえに表-3に示すリピーターの割合が約90%にも上る結果となった。また、選択1の「もう訪れたくない」と回答した人は1人もいなかった。

5. 周遊行動エリア傾向

本調査における回答をもとにエリア別着地トリップ数の上位13市町村を図-5に示す。

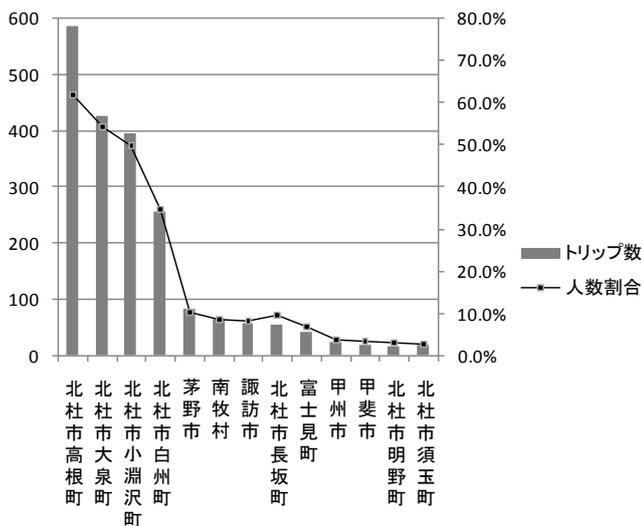


図-5 目的地エリア別累計(上位抽出)

図-5中における「トリップ数」とは食事・宿泊を含む全着地トリップに関してエリア別に分類したものである。また「人数割合」とは全サンプル数に対してそのエリアを訪れた人数の割合である。本調査においてはアンケートを配布した山梨県北杜市高根・大泉・小淵沢・白州町のいずれかに必ず訪れていることになるため、上記4町へのトリップが非常に多い結果となった。図-5の通り、北杜市高根町は訪れている人数に対するトリップ数が特に多い。反対に北杜市長坂町では人数に対するトリップ数が少ない結果となった。つまり高根町では一人あたりのトリップ数が多く、長坂町ではそれが少ないことが分かる。

また、図-5における一人あたりの訪問エリア数(全13エリア中)を図-6に示す。

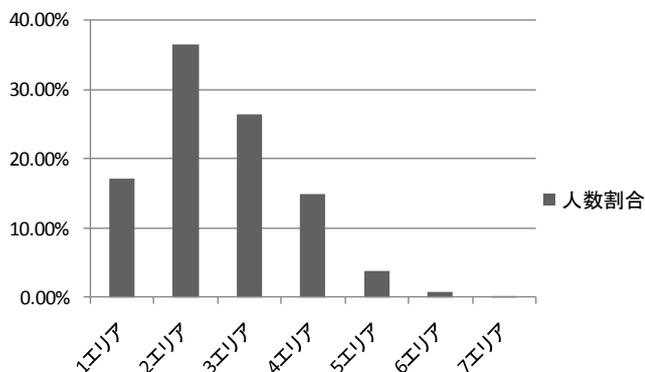


図-6 一人あたりの訪問エリア数

一人あたり平均2.55エリアを訪問していた。多くの人が4エリア以下で周遊行動をとっており、5エリア以上回っているサンプルは5%未満であった。

6. エリア間連関関係

(1)北杜市を中心としたエリア間連関基本データ

前述のように本調査においては北杜市高根町・大泉町・小淵沢町・白州町への来訪データが非常に多い。そのため本研究においては上記の主要4エリアを中心とした地域間連関関係の分析を行った。表-4は上記の主要4エリアを訪れた観光客が、それぞれ他の比較的来訪人数が多い地域に対してどれほどの割合で訪れているかを示している。

表-4 主要4エリア-他上位エリア連関表

	高根町	大泉町	小淵沢町	白州町	長坂町	明野町	須玉町	甲州市	甲斐市	茅野市	諏訪市	南牧村	富士見町
高根町	-	70%	44%	22%	10%	3%	3%	5%	3%	10%	7%	11%	5%
大泉町	79%	-	49%	21%	11%	3%	2%	4%	3%	8%	6%	11%	7%
小淵沢町	55%	53%	-	27%	10%	4%	2%	2%	3%	12%	8%	10%	8%
白州町	39%	32%	39%	-	11%	4%	4%	2%	4%	7%	9%	4%	7%

この表では、高根町を中心として大泉町、小淵沢町、白州町と地理的距離が離れるにしたがって連関関係が弱まる傾向がある。つまり地域同士の繋がりに距離が大きく影響することが分かる。全体的に主要4エリア同士以外に関しては同列の値に大きな違いは見られないが、白州町と南牧村の間には繋がりが弱い結果となった。これは白州町が他3町に比べて南牧村との距離が離れていることが原因として挙げられる。

(2)宿泊別連関比較

表-5では日帰り旅行者に比べて宿泊旅行者がどれだけ広がり方に違いがあるのかを表している。

表-5 宿泊別比較(宿泊者-日帰り者)

	高根町	大泉町	小淵沢町	白州町	長坂町	明野町	須玉町	甲州市	甲斐市	茅野市	諏訪市	南牧村	富士見町
高根町	-	-4%	15%	7%	15%	1%	2%	-1%	0%	10%	7%	6%	5%
大泉町	-2%	-	10%	12%	14%	0%	1%	0%	-3%	5%	6%	8%	10%
小淵沢町	14%	5%	-	0%	7%	3%	1%	0%	-2%	8%	8%	9%	5%
白州町	27%	29%	17%	-	12%	2%	6%	-1%	-2%	0%	-7%	8%	3%

この表では全体的にプラスの値が目立っている。このことから、宿泊旅行者は日帰り旅行者に比べて北杜市の一部や長野県地域との繋がりが強いことが分かる。宿泊旅行者は時間的に余裕があり、より多くの地域を周る傾向にある。また高根・大泉・小淵沢の3町と、白州・長坂町との数値が非常に高いことから、日帰り旅行者は北杜市北西部・南西部双方を周遊圏域に含むことは少ないことが読み取れる。

(3) 来訪回数別連関比較

表-6では表-5と同様の手法で、初めて八ヶ岳エリアを訪れた人を複数回訪れているリピーターと比べた結果である。

表-6 来訪回数比較(初来訪者-リピーター)

	高根町	大泉町	小淵沢町	白州町	長坂町	明野町	須玉町	甲州市	甲斐市	茅野市	諏訪市	南牧村	富士見町
高根町	-	4%	8%	6%	13%	-1%	0%	-3%	-3%	11%	11%	1%	-3%
大泉町	3%	-	11%	8%	13%	-4%	-3%	3%	-3%	9%	7%	6%	-6%
小淵沢町	7%	10%	-	2%	11%	-1%	2%	5%	0%	-6%	8%	-4%	-4%
白州町	25%	27%	19%	-	16%	-5%	3%	-2%	2%	-1%	10%	3%	-8%

ここでも前述の宿泊別比較と同様に、初来訪者はリピーターに比べて白州町を訪れた人が高根・大泉・小淵沢町へも圏域を広げ、かつ長坂町へも訪れる人が増えている。これは初めて訪れた観光客は多くのエリアを訪問するが、リピーターは過去に訪れた中で気に入っている一部のスポットのみを周遊する傾向があるためである。

(4) 情報収集有無別連関比較

本アンケート調査では当日の八ヶ岳観光旅行に際してスポット・食事・交通ルートの情報収集に用いた媒体を聞いた。西井・佐々木ら(2005)¹⁾は情報利用を時系列で分析し滞在時間モデルを構築したが、ここでは基本的に事前の情報利用を前提として扱う。

表-7では観光スポットに関して、表-8では食事場所に関して事前情報収集の有無で比較した。

表-7 スポット情報収集(収集あり-収集なし)

	高根町	大泉町	小淵沢町	白州町	長坂町	明野町	須玉町	甲州市	甲斐市	茅野市	諏訪市	南牧村	富士見町
高根町	-	-2%	26%	7%	-1%	4%	1%	6%	0%	5%	8%	0%	6%
大泉町	5%	-	22%	1%	6%	3%	0%	4%	-3%	-1%	7%	0%	5%
小淵沢町	38%	27%	-	6%	8%	5%	-1%	3%	0%	-5%	6%	8%	-4%
白州町	28%	16%	21%	-	3%	6%	1%	2%	5%	9%	-3%	1%	5%

表-7においては全体的にプラスの値が目立った。これにより観光スポットについて事前に情報収集を行った人は、何も収集しなかった人に比べて多くのエリアを訪れる傾向にあることが分かる。

表-8 食事場所情報収集(収集あり-収集なし)

	高根町	大泉町	小淵沢町	白州町	長坂町	明野町	須玉町	甲州市	甲斐市	茅野市	諏訪市	南牧村	富士見町
高根町	-	-12%	16%	7%	-4%	1%	-1%	3%	-1%	6%	4%	-5%	0%
大泉町	5%	-	15%	8%	-3%	4%	0%	0%	-3%	-2%	1%	-6%	1%
小淵沢町	30%	17%	-	12%	7%	6%	1%	3%	-2%	-2%	2%	1%	-3%
白州町	24%	16%	21%	-	0%	4%	-3%	3%	-5%	5%	-5%	0%	-1%

食事に関する情報収集有無による比較では、須玉町・甲斐市・南牧村・富士見町の数値がマイナスの

傾向があった。これは食事を目的として旅行している観光客は上記のマイナス値エリアへは行かず、高根・大泉・小淵沢・白州町へ訪れる傾向にあることが分かる。

7. おわりに

今回の調査により八ヶ岳エリアを訪れる観光客の属性や周遊行動範囲が明らかになった。個人属性としては4.で示したように中高年が多く、関東からの来訪が中心だった。利用交通手段としては大半が自家用車で、理由としては「移動に融通が利く」という回答が多かった。圏域に与える要因としては宿泊や来訪回数、事前情報収集の有無等が挙げられる。ここでは取り上げなかったが、同行者数比較からは圏域に大きな変化は見られなかった。

今後の課題としては観光周遊行動における圏域の広がりを与える要因のさらなる分析が挙げられる。今回行った分類だけではなく他にも多くの要因を調査し、より精度の高い行動特性把握を行う必要がある。またエリア連関だけでなくスポット間の繋がりを個人ベースで集計し、各目的地間の距離を用いて観光目的地組み合わせ選択モデルを推定する。

謝辞

本研究におけるアンケート調査では(株)地域設計代表眞壁氏、ならびにアンケート配布場所関係者の方々、北杜市役所観光課にご協力を賜りました。この場で厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1)西井和夫, 佐々木邦明, 金賢, 品川円宏, 山根広嗣: 観光客情報利用と周遊パターン・滞在時間特性との関連分析, 土木計画学研究・論文集 Vol.22, 2005